

ワークショップが可能にするESDと英語学習 の融合：生涯学習の視点から

INOMATA, Kazumi / 猪俣, 佳瑞美

(出版者 / Publisher)

法政大学大学院

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

大学院紀要 = Bulletin of graduate studies / 大学院紀要 = Bulletin of graduate studies

(巻 / Volume)

73

(開始ページ / Start Page)

71

(終了ページ / End Page)

92

(発行年 / Year)

2014-10

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00010188>

ワークショップが可能にする ESD と英語学習の融合 ～生涯学習の視点から～

Task-based ESD Workshop for EFL Learners

人文科学研究科 英文学専攻

国際日本学インスティテュート

博士後期課程3年 猪俣 佳瑞美

1. 目的および意義

(1) ESD 教材の多様性と社会人向け ESD¹ 教材の必要性

ユネスコが教員研修用に開発した教材「持続可能な未来のための学習」(2002) では、芸術、家庭科、第二言語学習など、既存の教科に持続可能な未来のための教育を促進させる議題やテーマを導入し、学習者のコミュニケーション能力や、言語スキルの向上を目指す様々な活動方法を紹介している。だが、このような ESD 活動を実施しようとした場合、対象や地域性への考慮、実施者の知識や経験を活かした内容および教材の制作、検討などが不可欠であり、実施者自身が実験的な取り組みを重ねることによってのみ構築できる要素が多く含まれることも事実である。

阿部 (1997, p. 218) は「私たち一人ひとりが他者への気づきを広げ、自己への気づきを深めていける機会が身近なところにあれば、持続可能な社会を目指した活動は急速に広がっていくはずである」と述べている。多田 (2003, p. 20) は、20 世紀までの人類が持っていた「自利益追求のための競争に打ち克つことこそ、豊かさへの道である」という素朴な信念は「相互不信を蔓延させていった」が、21 世紀になり「ようやくこれまでの人類の思い込みや拠り所にしてきた信念が根本的に誤っていることがわかってきた」からこそ、多様な他者と対話する機会を教師は学習者に与えるべきである、と論じている。

そこで本論では、大学、高校、企業研修に携わる英語講師として、成人英語学習者向け ESD 教材を試験的に制作する際に辿り着いたフレームワークの紹介を通して、ワークショップが可能にする ESD と英語学習の融合を生涯学習の視点から述べてゆく。

経済のグローバル化に伴い企業側が従業員に期待する英語力は高まる一方である。もはや、社会人にとって英語学習は生涯学習になりつつある、と言っても過言ではない。しかし、日本語母語話者にとって外国語である英語を使って何かをしようとする、日本語で行っているように業務は進まない。従って、日本語で仕事をしている時の自分と、英語を使って仕事をしている時の自分の間に乖離が生じ多大なジレンマを感じる社会人が非常に多い、という状態が生まれている。同時に、そのような状態が危機感となり英語学習に発車がかかる場合と、英語学習からの逃避に走るケースがある、と言わざるを得ない。実際、企業側の費用負担で研修を実施したにも関わらず、出席率が芳しくない結果になってしまった受講者は数多い。

成人初級英語学習者は、英語使用の面で困難さを伴うことは多いが、成人教育は子どもに対する教育とは異なる。教育学者のリンデマン (1926, p. 7) は、成人教育においては「成人ならではの生活経験、社会的責任、歴史性といった側面」が反映されるべきである、と述べているが、特に社会人初級英語学習者は、英語使用の面で困難さを伴うことは多いが、経験から得た知識や、個としての意見を持っている。

英語学習と ESD を同時に行うことを可能にする場を提供することは可能か、という発想が、本論の大本に

1 ESD とは、持続可能な開発のための教育 (Education for Sustainable Development) この教育の範囲とは、環境、福祉、平和、開発、ジェンダー、子どもの人権教育、国際理解教育、貧困撲滅、識字、エイズ、紛争防止教育など多岐にわたる。
文部科学省ホームページより抜粋 http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/jizoku/kyouiku.htm

はある。社会人はもちろんのこと、学生も含めた対象者を想定した英語研修を「英語を使う機会」であり「ESDの場」と捉え、英語学習面からの効果も期待できるワークショップ形式でのESD 英語研修、およびESDと英語学習の融合を、本論を通し提案したい。

（２）環境教育系ワークショップとウィリスのタスクベース教授法

中西（2006, pp. 17-18）は、ワークショップには、①自己啓発系、②身体解放系・身体表現系、③社会的合意形成型、④創造力開発系の４スタイルが存在する、とした上で、④創造力開発系ワークショップの特徴を以下のプロセスで提示している。中西はワークショップを「関与者の世界を捉えるまなざしを革新・再構成する契機を与えるもの」と定義し、企業における環境コミュニケーションの在り方などをテーマにワークショップを実施するファシリテーターである。

- i) 機能は分っているが構造の分らないブラックボックス化した対象やテーマに対し
- ii) 「つくって、さらして、振り返る」というワークショップの基本的な推進プロセスを行うことで
- iii) 不明瞭だったシステムや仕組み、概念がかたちになり
- iv) i～iiiの経験を通じて、これまでにない発想力や創造力を育成する

上記「つくって、さらして、振り返る」行程を以下に補足する。

つくって：提示されたテーマに関してグループごとにディスカッションなどを行い

さらして：ディスカッションをもとにグループごとに意見をまとめ全体に対して発表を行い

振り返る：他グループからのコメントや、グループでの話し合いを踏まえ、ワークショップを通して発見したこと、新しく思いついたことなどを振り返りながら再度話し合う。

ここで注目すべきこととして、このような「つくって、さらして、振り返る」という基本的推進プロセスを中心としたワークショップのフレームワークと、ウィリス（2003, p. 58）が英語教育において提示しているタスクベース教授法のフレームワーク（下述）には、共通性が見られるという点である。まず、以下の図1を参照されたい。



タスク学習の構成
(ウィリス, 2003, p. 58)

図 1

ウィリス (2003, pp. 60-87) は「タスク学習は、単に学習者に次から次へとタスクに取り組ませるというだけのものではない」と前置きした上で、プレタスク、タスクサイクル、言語的側面の学習という 3 つの段階を次のように位置づけている。

プレタスク：学習者にトピックを導入。特定の文法項目を教えるのではなく、関連した単語やフレーズに目を向けさせることが目的。

タスクサイクル：学習者は自分が持つ限りの英語の知識をフルに用いながら行う。

- i) **タスク活動** 学習者はタスクをペアもしくは、小グループで行う。
言語形式の正確さよりも、言いたいことを相手に伝えることを重視。
教師の役割は、学習者を観察し、やる気にさせること。
- ii) **準備** 学習者はタスクへの取り組み、その結論、発見したことをクラス全体に口頭か文章で発表するため準備をする。言いたいことを整理し、適切で正確な表現を考え、英語力の水準を

上げることが目的。

教師は助言者として、フィードバックを与え、手助けをする。

iii) 発表

学習者は準備した成果を発表する。

教師は司会者として各グループの発表を関連づけたりまとめたりする。

言語的側面の学習：タスクサイクルの中で用いられていた英語を振り返り、その表現上の特徴について理解を深め、定着させることが目的。

教師はタスクサイクルの中で用いられていた単語やフレーズ、文型などを学習者による分析活動中もしくは分析後に練習させる。

環境学習での「つくって、さらして、振り返る」という基本的推進プロセスと、ウィリスの英語学習タスクベース教授法における「タスク活動、準備、発表」というタスクサイクルには類似点が多く、環境学習系ワークショップの導入で多用されるアイスブレイキングなどをウィリスのタスクベース教授法におけるプレタスクと位置づければ、両者の構成は更に近いものとなる。

外国語教育におけるタスクとは、学習者が目標言語（本論では英語）でコミュニケーション活動を行うための課題である。タスクに関してはエリス（2003）や、ニューナン（2004）、日本の中学、高校における英語教育でのタスク応用に関しては、高島（2005）でも紹介されているが、その中でウィリスのタスクベース教授法に注目した理由は、環境学習での基本的推進プロセスとの類似性のみならず、ウィリスのフレームワークが従来の英語学習が抱える問題を解決するための具体的な方法を提示している、と考えられるからである。

従来の伝統的な英語学習は、3 Ps (Presentation, Practice, Production) という指導手順で行われてきた。これは、ワークショップ実施者の中野（2001, pp. 43-44）が述べている「あれこれ知識を提供」し「こうするべきだ」という幾多の解決策やアクション」を示す「知識伝達型」の手法であり、環境配慮行動同様「必ずしも人々を実践に誘うのに役立たない」可能性がある。吉田（2003, p. 20）は、英語を知識として獲得しようとする従来の英語学習に対し「特定の目的のためにいくつ英語を勉強しても」実社会に出た時に使用できるようにならないことは「今までの日本の英語教育の経験から分っている」と断言している。

プレタスクから始まり、タスク活動、準備、発表というタスクサイクルを経て、言語的側面の学習に辿り着くタスクベース教授法をウィリス自身（2003, pp. 224-226）「PPP 型学習との間に大した違いがあるわけではなく、単に手順を逆にしてしているだけじゃないのか」と質問されることがある、と述べた上でフレームワークの特徴を PPP 型に比べ「自由に英語を使う機会がはるかに多い」だけでなく、さまざまな特徴があると解説している。その中には「タスクサイクルの中の3つの活動のいずれにおいても、表現のしかたに制限が加えられることはいっさいない」こと、「準備の段階では、学習者にある1つの項目を正しく使うのではなく、英語の表現全般の適切さや正確さについてよく考えさせることができる」こと、「表現の正確さと話し方のスムーズさの両方を高めるべく、最大限の努力をする必要が生じる」ことなどを上げている。これらの特徴は、対話を重視するワークショップとの融合を前提に考えた場合、相乗効果が期待されと考えられるだろう。授業計画へのタスクの取り入れ方は指導者によって異なるが、以上のような洞察の結果、効果的な英語教育と環境教育の融合には、環境学習の基本的推進プロセスと共通性を持ったウィリスのタスクベース教授法におけるフレームワークが有効なのではないか、と考え、モデルレessonプランを作成した（付録1 レッスンプラン参照）。

(3) ワークショップ型英語研修における使用言語

ワークショップ型英語研修と、講義型英語研修の異なる点は、ワークショップ型においては参加者同士の対話がワークショップを進める上で欠かせない、ということである。

ウィリス（2003, p. 76）は、教室内で「母語の使用を禁止するというのは、おそらくよいことではない」が、同じ母語を使用する学習者同士が教室内で「互いに英語で話し合うことがいかに大切」で、英語でタスクに取り組むことが「現時点での英語の力にかかわらず大切」であることを学習者に理解させることが不可欠である、

と述べている。

ワークショップ中、ファシリテーターが使用する言語は英語が好ましく、基本的に参加者にも英語の使用を求めることが望まれるが、参加者の英語力により、タスクサイクルのタスク活動部分ペア／グループワークと、言語的側面の学習におけるペア／グループワークに関しては参加者間の日本語使用を必要以上に問題視すべきではない、とも思われる。これは、これらのタスク中に十分な意見交換が行われなかった場合、その後に行われるタスクに大きな影響を及ぼし、学習効果を下げる可能性があるからである。初級レベルの社会人英語学習者は、往々にして英語または英語学習そのものに苦手意識を持っていたり、英語に興味はあるものの学校教育における英語学習での挫折がトラウマになっていたりする場合もある。参加者同士の対話がワークショップの中心的活動であることから、参加者が英語使用を躊躇した結果、対話が激変した、ということが起きないよう配慮すべきだろう。

吉田（2003, pp. 19-21）は、日本のような教室外で英語がほとんど使用されていない国で外国語として英語を学ぶEFL環境において、伝統的な英語教育と、コミュニケーション・アプローチに基づいた英語教育のあり方を、金魚鉢モデルと大海モデルを使用して説明し、全てにおいて完璧が求められる金魚鉢モデルの伝統的英語教育では「正しい英語に生徒を適応させることが大切になる」が、現実の汚れた海に適応し生きてゆく、すなわち自立的な学習姿勢が求められる大海モデルのコミュニケーション・アプローチに基づいた英語教育では「英語を生徒一人一人のニーズや能力に適応させることこそが大切」であり「形が正しくなくても、伝えたい意味内容を正確に伝えられるか、それこそが第一の目的となる」と述べている。

社会人学習者の中には、社会的な必要に迫られ、英語力の有無に関わらず大海に出されてしまう場合も多い。だが、柳瀬（2005, p. 38）が指摘するように「書店に並ぶ書籍のほとんどは『決まり文句集』のようなもの」で、自分の言いたいことを英語で表現するための「自由度の高い表現」に対処できる初級レベル社会人学習者向け英語教材は、ほとんど見当たらない。もちろん、ここには理由がある。「自分の言いたいことを英語で表現する」ことを促進した場合、解答は1つではない。各自の言いたいことは無限に広がり、オープンエンドな授業が求められる。一般的な英語研修において、オープンエンドな研修は、比較的高レベルなクラスでディスカッションやプレゼンテーションなどを通し実施されているが、TOEICスコア300点前後のいわゆる初級レベルから導入されることは稀である。

そのようなケースにおいては、初級レベルの学習者用に日本語を使用したトピック別ワークシートを制作し、タスクとしてまとめ実施することを提案したい（付録2参照）。これは、参加者自身が本当に伝えたいことを英語で伝えるための教材であり、参加者と同じ母語を使用するファシリテーターだからこそ実施可能なタスクである。実際、筆者自身、現場では学習者同士が英語で会話を始める準備として、各自ワークシートを使い話したいことを日本語でまとめた後、英語にする行程を経て、英語による参加者同士の会話を試みているが、ワークシートで取り上げるテーマが、参加者自身の身の回りに関することを中心に選択していることもあり、TOEICスコア300点前後の英語力であっても30分程度の作業時間を与えれば、考えを英語にすることは可能であった。また、各自が伝えたい意味内容を母語で把握していることから、他参加者に対して自分が意とした意味内容を伝えることが出来たか、相手の様子を見ながら判断することが可能であり、不完全な形で意味のやり取りが行えることを参加者自身で実感できるタスクとなっている。

教育学者のデュイー（2004, p. 119）は「教授するということは、学習者がすでに具備している経験からはじまるということ、およびその経験が推移していく過程に発展させられてきた更なる経験と能力が、すべての将来の学習の出発点を提供するということである」と述べている。社会人英語学習者は、既に一度、英語教育を受けた経験を持ち、社会経験を経て得た知識もある。企業現場では、非英語母語話者同士で英語を使用し仕事を進めている初級学習者も多い。

吉田（2003, p. 22）は2003年に日本を訪れた外国人の内訳は過半数が英語を母語とせず、日本人同様、英語を外国語として学んでいるアジア人であることを指摘し、ネイティブ・スピーカーのモデルは大切かもしれないが「練習のモデルとしての英語と実際に許容されるコミュニケーションの手段としての英語は同じものではない」と述べ、本名（2006, p. 18）は、「英語を話すなら英米人のように握手をしなければならない、と考えるのはおかしいことである」と言い、「私たちは英語を話すからといって、自分の文化を捨てる必要はどこ

にもないということである」と述べている。非英語母語話者である英語学習者が国際語としての英語の在り方に気付き、自分たちの英語に自信を持って学習を進められるよう導くことが、今後さらに非英語母語話者である英語指導者には求められるだろう。

2. 教材内容に関する留意点として

参加型ワークショップ形式による実施を前提とした実験的教材を作成する際、内容において以下の点を留意した。

(1) ワークショップにおける使用言語

- ファシリテーターはワークショップ中、英語を使用する。ただし、各ワークショップ開始前と修了時に、参加者の理解を確実なものとするために、日本語でのオリエンテーションおよび、質疑応答を行う。
- 参加者同士の会話には英語の使用が推奨されるが、参加者の英語力に応じてファシリテーターが許可したタスク活動に限り、日本語の使用も可能とする。
これは、英語使用に対する躊躇により、ペアワークやグループワークでのコミュニケーションが止まることを避けるためである。
- 参加者はワークショップ中、日本語でワークシートの書き込みを行うことが出来る。これは各自が伝えたいことを日本語で明確にし、英語に置き換え使用する、という過程を当ワークショップでは重視するからである。
社会人英語学習者が抱える「言いたいことはあるのに英語に出来ない」というジレンマを取り去り、参加者自身による日本語と英語の構造的違いへの気づき、英語による意思疎通を实践する動機付けを促す。

(2) 教材における使用言語に関して

研修のメイン教材としてファシリテーターが使用するレッスンプランとワークシートでは英語を使用。トピックス内容に関する理解や英語理解を補足する初心者向けワークシートでは、日本語を使用する。

(3) 教材で取り上げる内容／トピックスに関して

- 参加者のESDに対する興味の有無を前提としない内容を心がける。
- 特定の思想を取り上げ助長するのではなく、事実を伝えることを目的とする。
- 英語教材で使用することを前提に、学習に特化した架空の内容を制作するのではなく、実際に起きていることがら、事実に対する報道、信頼できる機関が発表している情報をソースとする。これは、教材を使用する場が、参加者同士の意見交換が重要な内容となるワークショップで使用されること、環境問題に関わるESDであるため、現実を直視することが不可欠であることが関係している。

(4) 対象参加者

英語で身近なことを話せるようになりたいと考えている英語学習者。
初級、中級レベルは、文法的知識を十分に身につけていない場合が多く、非英語母語話者である英語指導者が担当することで、日本語での補足が可能になり英語学習における理解が期待できる。実際の研修において、最も邦人講師が求められているレベルである。

3. 英語による交流を体験する場としてのワークショップ

(1) 社会人英語学習者と構成的ワークショップ

高校の英語指導において平成 25 年より授業内の使用言語は英語が望ましい、とされ、法人指導者であっても英語による授業を求められる可能性が高くなっている。しかし、英語による授業は誰にでも容易に行うことが出来る訳ではない。従って、指導者側が使用する英語によるLESSンプランとそれらに付随するワークシート集、指導法の指南に対するニーズは高まる、と考えられる。

川嶋は (2008) 「ワークショップ形式の学びには、構成的と非構成的」が存在し「内容、対象者、ファシリテーターの技量により、どちらで行うべきか検討する必要がある」と述べている。心理学者、國分 (1992, p. ii) によれば、集団体験方式の教育における構成的とは「リーダーが用意したプログラム (エクササイズ) で作業や討議をする方法」であり、具体的には、エクササイズ、グループサイズ、時間、ルールが設定され、リーダーは、それらのねらいなどに関するインストラクションを行いながら進行を行う。対する非構成的とは「自由討議を主たる内容とし、ルールの取り決めも少なく、リーダーの主導権が極端に低いのが特徴」と述べている。英語教授という側面を満たすために、本論の付録にあるLESSンプランは、構成的ワークショップで制作した。

(2) まとめ

本論では、対象を初級から中級レベルの社会人英語学習者に想定、ワークショップ形式で実施される英語研修で使用可能なESD教材の可能性を探り、LESSンプランの制作を試みた。環境省のアンケート結果では、回答者の9割以上が環境問題解決のため環境意識を高め、環境教育、環境学習の機会を持つ必要性を実感しているにも関わらず、実際の参加状況は全体の1割程度という現状が明らかになっている。社会人初級英語学習者は、英語使用の面で困難さは伴うことは多いが、経験から得た知識や個としての意見を持っている。そこで、構成的ESDワークショップをデザインし、英語学習面からの効果も期待できる形態での融合を試みた。

英語指導の流れには、ウィリス (2003) が英語教育において提示しているタスクベース教授法のフレームワークを応用した。ワークショップにおける基本的推進プロセス「つくって、さらして、振り返る」というフレームワークと、「プレタスク、タスクサイクル、言語的側面の学習」という3つの活動を軸に展開するウィリスのフレームワークには共通点が多いだけでなく、従来の伝統的指導手順3Ps (Presentation, Practice, Production) が抱える問題を解決へと導く具体的方法を提示していたからである。また、参加体験型ワークショップと、講義型学習の異なる点は、ワークショップにおいては参加者同士の対話がワークショップを進める上で欠かせない、ということであり、ウィリスのフレームワークに存在する次のような特徴に注目した。

—タスクサイクルにおける3つの活動いずれにおいても、表現に制限が加えられることはいっさいない。

—準備の段階では、学習者にある1つの項目を正しく使うことではなく、英語の表現全般の適切さや正確さについてよく考えさせることができる。

—表現の正確さと話し方のスムーズさの両方を高めるべく、最大限の努力をする必要が生じる。

これら是对話を通して学習者自身の気づきを促進する可能性を秘めており、対話を重視するワークショップとの融合を前提に考えた場合、相乗効果が期待されると考えた。

ワークショップ中、ファシリテーターが使用する言語は英語としており基本的に参加者にも英語の使用を求めているが、参加者の英語力により、特定のタスクに限り日本語使用を問題視していない。これは参加者同士の対話がワークショップの中心的活動であることから、参加者が英語使用を躊躇した結果、対話が激変した、ということが起きないように配慮したためである。また初級レベルの学習者用に日本語を使用したトピック別ワークシートを制作しタスクとしてまとめた。これは、参加者自身が本当に伝えたいことを英語で伝えるための教材であり、参加者と同じ母語を使用するファシリテーターだからこそ実施可能なタスクである。

一般的な社会人英語研修において、オープンエンドな研修は、比較的高レベルなクラスでディスカッションやプレゼンテーションなどを通し実施されているが、TOEIC スコア 300 点前後のいわゆる初級レベルから導入されることは稀である。本名 (2006, p. 164) は、「私たちは英語で自己を表現するときに、発話内容を英語能力に合わせてはならない。英語が下手でも間違っている、発言を妥協しない態度が重要である」と述べている。共通する母国語があるにも関わらず、あえて外国語を使用して何かを行う、という「体験」は、ある意味、非現実的で非日常的かもしれない。だが、異なる言語を使用している自分を「体験」することで得られる刺激もあるだろう。中野 (2001, p. 166) は、「ワークショップには『非日常』的な体験であるからこそその可能性がある」とも述べている。外国語として英語を学ぶ EFL 環境だからこそ、英語を使用しなければならない場面を積極的に作り出し、たとえ不完全であっても学習者どうしが英語を媒介させながら意思の疎通に取り組むことに意義を見出す。ファシリテーターが英語を使用し、学習者同士が対話する場面を多数設けることで、ワークショップへの参加を「体験」と位置づけ、非英語母語話者同士が英語を使用し交流する「体験」となるよう考慮した。

参考文献

- 阿部 治・野田研一 (監修) (2007). 『あなたの暮らしが世界を変えるー持続可能な未来がわかる絵本』山と溪谷社.
- 阿部 治 (1997). 「環境教育」 社団法人日本環境教育フォーラム+安田火災海上保険株式会社 (編) 『市民のための環境講座ー上巻』 (209-232 頁). 中央法規. 阿部治・野田研一・鳥飼玖美子 (監訳) (2005). 『持続可能な未来のための学習』有斐閣.
- [原著: Unesco (2002). *Teaching and learning for sustainable future*. <http://www.unesco.org/education/tlsf>].
- 浅川和也・飯野厚・岡田順子・Kip A. Cates・木村みどり・笹田巖ほか グローバル英語教育研究会 (編) (1996). 『グローバル英語教育の手法と展開: オーラルコミュニケーションへの応用』三友社出版.
- デューイ, J. (2004). 『経験と教育』(市村尚久・訳). 講談社.
- [原著: Dewey, J. (1938). *Experience and education*. New York: Macmillan].
- Ellis, R. (2003). *Task-based language learning and teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- ハーマー, J. (2001a). 『新しい英語の学び方・教え方』(渡邊時夫・監訳). ピアソンエデュケーション.
- [原著: Harmer J. (1998). *How to teach English*. London: Addison Wesley Longman].
- Harmer, J. (2001b). *The practice of English language teaching*. Essex: Pearson Education.
- 羽藤由美 (2006). 『英語を学ぶ人・教える人のためにー「話せる」のメカニズムー』世界思想社.
- 廣瀬隆人・澤田実・林義樹・小野三津子 (著) (2000). 『参加型学習のすすめ方: 「参加」から「参画」へ』ぎょうせい.
- 広瀬幸雄 (1995). 『環境と消費の社会心理学: 共益と私益のジレンマ』名古屋大学出版会.
- 本名信行 (2006). 『英語はアジアを結ぶ』玉川大学出版部.
- 川嶋 直 (2007. 10). 『ワークショップ論』立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科口頭発表, 於・立教大学.
- 小池俊雄 (2003). 「環境問題に対する心理プロセスと行動に関する基礎的考察」『水工学論文集』第 47 巻, 361-366 頁.
- 國分康考 (1992). 「まえがき」『構成的グループ・エンカウンター』 i - ii 頁.
- リンデマン, E. (1996). 『成人教育の意味』(堀薫夫・訳). 学文社.
- [原著: Lindeman, E. (1926). *The meaning of adult education*. New York: New Republic].
- 三阪和弘 (2003). 『環境教育における心理プロセスモデルの検討』環境教育 13 巻, 1 号, 3-14 頁.
- 三阪和弘 (2005). 「心の変容を知るために」小池俊雄・井上雅也 (編著) 『環境教育と心理プロセス: 知識から行動へのいざない』 (111-125 頁). 山海堂.
- Murphy, R. (1985). *English grammar in use*. Cambridge: Cambridge University Press.

- 中西紹一（編著）紫牟田伸子・松田朋春・宮脇靖典（共著）（2006）.『ワークショップ:偶然をデザインする技術』
宣伝会議.
- 中野民夫（2001）.『ワークショップー新しい学びと創造の場』岩波書店.
- Nunan, D. (2004). *Task-based language teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 大谷泰照・堀内克明（監修）（2002）.『社会人のための英語百科』大修館書店.
- 大津和子（1992）.『国際理解教育ー地球市民を育てる授業と構想』国土社.
- 多田孝志（2003）.『地球時代の言語表現：聴く・話す・対話力を高める』東洋館.
- 高島秀幸（編著）今井典子・杉浦理恵・田中和彦・田鍋敦子・東野裕子・村上美保子（共著）（2005）.『英語
のタスク活動とタスク』大修館書店.
- 鳥飼玖美子（2002）.『TOEFL テスト TOEIC テストと日本人の英語力：資格主義から実力主義へ』講談社.
- 柳瀬和明（2005）.『日本語から考える英語表現の技術：言いたいことを明確に伝えるための5つの処方箋』講
談社.
- 吉田研作・柳瀬和明（2003）.『日本語を活かした英語授業のすすめ』大修館書店.
- Willis, D. & Willis, J. (2007). *Doing task-based teaching*. Oxford: Oxford University Press.
- ウィリス, J. (2003).『タスクが開く新しい英語教育』（青木昭六・監訳）. 開隆堂.
- [原著：Willis, J. (1996). *A framework for task-based learning*. Harlow: Longman Pearson Education].
- 財団法人日本社会福祉弘済会（2008）.「空飛ぶ車いすプロジェクト」2008年8月21日

<付録 1 >

ESD as Global Studies
THEME : Volunteer work

<p>LENGTH OF TEACHING</p> <p>180 minutes</p> <p>LESSON AIMS</p> <p>1.Receptive skills: LISTENING</p> <p>Students will practice their receptive listening skill through the original recording “Flying Wheelchair” and “My volunteer work”</p> <p>2.Productive language skills: SPEAKING/WRITING</p> <p>Students will practice their productive language skills, speaking and writing, through the interview task on the basis of functional use for telling possibility about something students might do in the future using “first conditional”(i.e., non-counterfactual conditional; e.g., “If we play tennis, I’ll win”).</p>
<p>MATERIALS NEEDED</p> <p>The original recording : “Flying Wheelchair”</p> <p>Adapted from the web site http://www.nisshasai.jp/soratobu/index.html</p> <p>The original recording : “My volunteer work”</p> <p>Based on my friends’ real experiences</p> <p>Original Handout1,2,3,4,5 plus reading materials from the web sites</p> <p>Original PowerPoint slides</p> <p>ANTICIPATE PROBLEMS AND SOLUTIONS</p> <p>Problems: Weaker students may have problems with tasks.</p> <p>Solutions: Make pairs together with a weak student and a strong student.</p> <p>Let them do the tasks in a pair.</p>

Flow of the Lesson Plan

- Receptive skills: LISTENING
- Stage1: Introduction and lead in / Pre-Listening Task**
- Stage2: Listening Task 1 “My volunteer work”**
- Task cycle:** Task Listening for specific details
- Planning..... Discussion and writing
- Report..... Comparing the information
- Focus on form** Analyzing listening scripts
- Stage3: Listing**
- Task cycle:** Task.....Discussion
- Planning..... Listing /grouping volunteer works
- Report..... Comparing
- Stage4: Listening Task 2 “Flying Wheelchair”**

Task cycle: Pre-task Prediction from the title
 Task.....Listening for gist / Discussing
 Planning..... Listening for specific details /
 Filling out the worksheet
 Report.....Comparing the answers
Focus on form Analyzing listening scripts

Productive language skills: **SPEAKING**

Stage1: Reading / Speaking Task

Task cycle: Task.....Reading for general understanding /
 Skimming
 Planning..... Writing the ideas for speaking
 Report.....Interviewing and answering the questions

Stage2: Focus on form

Analyzing first conditional / Practicing in pairs

Stage3: Supplementary explanation in Japanese

Lesson Plan

<PROCEDURE for **Receptive skill: LISTENING** TT=The teacher talks>

Stage 1: Introduction and lead in

Pre-Listening Task / Prediction from the pictures

Show the students two pictures and try to elicit the word “volunteer”.

TT: Please look at the board. Where is this? What are they doing?

Visual Aid Two pictures of “*SHIBUHANA*” Shibuya flower project

Then, tell the students to do a small discussion about these pictures in pairs.

TT: Let’s have a small discussion in pairs.

Please talk about anything in these pictures with your partner.

The teacher will walk around the tables monitoring and checking that everybody gets the ideas about the two pictures.

After a small discussion, the teacher will elicit the word “volunteer” from the students.

TT: OK, could you tell us what you talked about?

Once the word “volunteer” is elicited, ask the students to guess the name of this volunteer project.

TT: Have you ever heard the name of this volunteer project?

Can you guess the name of this volunteer project?

Then introduce the “*SHIBUHANA*” volunteer project.

TT: The Shibuya flower project was started in 2003. One day, one girl thought if Shibuya were filled with flowers, nobody would throw rubbish on the street. On the Earth Day in 2003, they decorated the area around the Moai statue with 1000 flower pots and then they started planting flowers there. Now, they take care of the flower pots along Meiji Street and the flower garden beside Miyashita Park, too.

Stage2: Listening Task 1 “My volunteer work”

For the Recording 1

Task cycle: Task Listening for specific details

TT: Now, let's try some listening tasks. I asked two of my friends to talk about their volunteer work experiences and I recorded them. One of my friends is Katherine. She is from the US. Please listen to it and try to find out what kind of volunteer work she did.

Play a recording the RECORDING 1 / Katherine

TT: What kind of volunteer work did she do? Please talk about what Katherine said in the recording with your partner.

The teacher will walk around the tables and monitor to check that everybody is talking about Katherine's experience.

TT: I play the recording one more time. This time, you can take notes while listening.

Play a recording the RECORDING 1 / Katherine again

Task cycle: Planning Discussion and writing

Ask the students to discuss the details of Katherine's experience and write them down in pairs.

TT: Please talk about the details of Katherine's experience in pairs and write them down. You are going to show your sentences to other people later, so please make simple and clear sentences.

The teacher will walk around the tables and monitor. If the students ask for help, just give them some hints. Do not give correct sentences right away.

Task cycle: Report Comparing the information

Make some groups and tell the students to compare the sentences with others.

TT: Ok, let's make some groups. Could you get together and show your sentences to each other? If you can't understand any part of the sentences, please underline that section and ask the people who wrote them about it. If you find any grammatical mistakes, please discuss them in a group and make corrections.

The teacher will walk around the tables and monitor. When time is up, ask each group to read the sentences they wrote to the class. Then play the recording again to check.

Focus on form Analyzing listening scripts

The teacher will give the listening script. The students will check one's understanding and analyze the parts one was not sure of individually.

For the Recording 2

Task cycle: Task Listening for specific details

TT: Here is a recording of my other friend talking about his volunteer work experience. His name is Henri and he is from Canada. Please listen and try to find out what kind of volunteer work he did.

Play a recording the RECORDING 2 / Henri

Do the same Task cycle again using Recording 2.

Stage3: Listing**Task cycle: Task Discussion**

The teacher will ask the students to discuss the types of volunteer work they know in a pair and write them down on the worksheet.

(Please look at the Mind Map Worksheet.)

TT: My friends volunteered as teachers. Teaching something is one of many types of volunteer work. Let's make pairs and talk about the types of volunteer work you know. Then please write them down on this work-sheet. I will give one sheet to each pair so please fill out together.

The teacher will hand out one worksheet to each pair. During the discussion, the teacher will walk around the tables and monitor.

Task cycle: Planning Listing / grouping volunteer works

The teacher will ask the students to make groups and share the volunteer works they wrote about.

TT: Let's make some groups and share what you wrote.

First, the teacher will ask some groups how many volunteer works they wrote and then, show one worksheet to the class as an example. Next, ask them to categorize the volunteer works they wrote into three or four groups according to type or action. Finally, ask the groups to make a list using another worksheet.

TT: This group wrote about (15) ! Great! Now I'd like you to make a list using each mind map. Here is another worksheet. It says "type 1", "type 2", "type 3" and "type 4". For example, this group wrote ○○○ ; let's put this under type 1. Is there any other volunteer work that has something in common with ○○○ ? This group also wrote

The teacher will read aloud other volunteer works from the mind map.

TT: Does anyone have any ideas? What do you see in common?

Give 30 seconds to discuss in pairs, if it is necessary. When the teacher elicits something in common between two different volunteer works, tell the students to write it as a key word next to type 1.

TT: Don't forget to put the key words for each group.

The teacher will hand out a new worksheet to each group. During the task, the teacher will walk around the tables and monitor.

Task cycle: Report Comparing

The teacher will ask each group to put their list on the board.

Everybody stands up and reads all the lists with their group members. As a group, discuss each list and write comments on the list.

TT: When you are finished, please put your list on the board. Everybody, please stand up and read the other groups' lists with your group members. Discuss and if you can't understand any part of the sentences, please underline that section. I will give you 3 minutes for reading and checking each list. Let's start.

When all groups are finished, ask some students to give feedback.

Stage4: Listening Task 2 "Flying Wheelchair"**Task cycle: Pre- task Prediction from the title**

The teacher will show the title of the next listening theme “Flying Wheelchair” and ask the students to guess a story from the title in pairs.

TT: Please look at the board. As a second try, let’s listen to a recording that is a little longer.

Visual Aid: the title of the next listening theme “*Flying Wheelchair*”

TT: “Flying Wheelchair” is the name of a real volunteer project that you can join if you want. Before we start this listening task, let’s guess:

-What kind of volunteer project is it?

-What are they doing?

-How can we volunteer with the Flying Wheelchair project? and so on.

Please discuss with your partner. I’ll give you 3 minutes.

The teacher will walk around the tables and monitor. Check to see that everybody is talking about “Flying Wheelchair”. When time is up, ask some of the students to share what they guessed.

TT: So, what will “Flying Wheelchair” volunteer project be like?

The teacher will elicit some ideas for sharing in class.

Task cycle: Task Listening for the gist / Discussing

TT: Now, I will play a recording about “Flying Wheelchair” volunteer project. Please listen.

Play a recording the **RECORDING 3 / “Flying Wheelchair”**

TT: What kind of information did you get about “Flying Wheelchair” volunteer project? Please talk with your partner.

The teacher will walk around the tables and monitor. Check to see that everybody is talking about “Flying Wheelchair” volunteer project. When time is up, ask some of the students what they talked about.

Task cycle: Planning Listening for specific details /

Filling out the worksheet

TT: Before we listen to the recording again, I’d like you to read these questions.

The teacher will show the worksheet and explain.

TT: While listening to the recording one more time, please try to find out the answers for these questions. You can take notes.

The teacher will give the worksheets and tell the students to read the questions once. Then play recording 3 again.

Play a recording the **RECORDING 3 / “Flying Wheelchair”** again

Task cycle: Report Comparing the answers

TT: Now, please check your answers with your partner. If you wrote only some words, please make sentences using the words you wrote. You can use any information you got from the recording.

Later, you are going to show your answers to other pairs, so please make sentences clear and easy to understand. We will do this task in pairs, so please help each other.

The teacher will walk around the tables and monitor. If the students have problems, the teacher will give some hints (NOT the answers). When everybody is finished, make groups of 4 or 6 and let them compare the answers. If necessary, check the answers in class. Then, the teacher will do concept checking.

CONCEPT CHECKING QUESTIONS

Do high school students repair old wheelchairs in this project?	YES
Do you have to buy a wheelchair?	NO
Can you join this project if you travel to Taipei?	YES

Focus on form Analyzing listening scripts

The teacher will give the listening script. The students will check one's understanding and analyze the parts one was not sure of individually.

<PROCEDURE for **Productive language skill: SPEAKING**>

Stage1: Reading / Speaking Task

Task cycle: Task **Reading for general understanding /**

Skimming

TT: OK, It's time to speak! Today, I'd like you to talk about the volunteer work that you might have some interests in.

The teacher will show reading handouts to the students.

TT: These are 4 (~6) sheets of 4 (~6) different volunteer works. They are all real; I gathered them from different web sites. Please skim them and decide which one you will do if you have a chance.

The teacher will give reading handouts to the students and tell them how many minutes they will have for skimming.

Task cycle: Planning **Discussing / Writing the ideas for**

speaking

TT: Have you decided which volunteer work you will try if you have a chance?

Now please have a short discussion with your partner and explain the reason why you would like to try it. I will give you ○ minutes.

The teacher will walk around the tables and monitor. When time is up, show the worksheet and tell them to write their ideas.

TT: Here is a worksheet. You have already talked about the reason why you would like to try a certain volunteer work, so as a next task, please write your idea on this worksheet individually.

The teacher will hand out worksheets and walk around the tables and monitor. If the students have problems, give some hints (NOT the answers).

Task cycle: Report **Interviewing and answering the questions**

TT: Now, let's do some interviews. First, please make new pairs. Then, you will ask 2 questions to each other: one is "Which volunteer work did you choose?" and the other is "Why did you choose it?" I will give you 3 minutes for the interview. After the interview, please fill in this worksheet at your table.

The teacher will hand out worksheets.

TT: Is everybody OK? Please stand up and find a new partner.

The teacher will walk around and monitor. After the interview, let the students go back to the original table to fill out the worksheet. Do the same task 2 or 3 times.

Stage2: Focus on form

Analyzing first conditional / Practicing in pairs

The teacher will ask some students

TT: Mr. /Ms. ○○○, who did you interview? What did s/he say?

OK, so we can say,

If Mr. /Ms. ○○○ has a chance, s/he'll volunteer with/as.....

Because.....

Everybody, please repeat.

If Mr. /Ms. ○○○ has a chance, s/he'll volunteer with/as.....

Because.....

Very good! Mr. /Ms. ○○○, who did you interview? What did he say?

OK, so we can say.....everybody together.....

If Mr. /Ms. ○○○ has a chance, s/he'll volunteer with/as.....

Because.....

The teacher will demonstrate the use of “with” and “as” in the sentences using the information from the students.

(If it is necessary, write them on the board.)

TT: Now could you report your interviews to your partner using “If Mr. /Ms. ○○○ has a chance, s/he'll volunteer with/as..... Because..... ” ?

Mr. /Ms. ○○○ and Mr. /Ms. ○○○, could you demonstrate as an example for the class?

Thank you.

Everybody please start. I will give you ○ minutes.

The teacher will walk around and monitor. When time is up, explain the use of first conditional.

TT: Please do NOT use “when” instead of “if” in this sentence, because there are differences. Please look at the board.

Board work 1:

I'm going shopping this afternoon.

I go shopping, I'll buy some food.

I might go shopping this afternoon.

I go shopping, I'll buy some food.

The teacher will tell the students to discuss the difference between the 2 sentences on the board in pairs. After the discussion, some students will share their ideas with the class. Then, ask the students to decide in which sentence they should use “if” with a partner. At the end of discussion, do the checking as a class.

Board work 2: Answers

I'm going shopping this afternoon. (for sure)

When I go shopping, I'll buy some food.

I might go shopping this afternoon. (It's possible)

If I go shopping, I'll buy some food.

Worksheet 1: Mind map

“What kind of volunteer works are there?”

volunteer work

Worksheet 2: List of volunteer works

Type 1: key word _____

Type 2: key word _____

Type 3: key word _____

Type 4: key word _____

Worksheet 3: Questions

1. What is the Flying Wheelchair project?
2. How many technical high schools have joined?
3. What do high school students do with the wheelchairs?
4. How can you support the Flying Wheelchair project?

The first step to take:

The second step to take:

The last step to take:

Worksheet 4: My volunteer work

I would like to volunteer with

Because

Worksheet 5: Interviews

Mr. /Ms. _____ **would like to volunteer with**

Because

Mr. /Ms. _____ **would like to volunteer with**

Because

Mr. /Ms. _____ **would like to volunteer with**

Because

Scripts of the original recording for Listening task: the RECORDING 1 / Katherine

When I was in university, I volunteered at a low income high school tutoring math and science. It was me and several other women as well as a man who had already retired. I had actually gone to a high school near by and the differences between my school and the school I volunteered at were very apparent. This was a really good experience for me because it brought out the differences in socioeconomic status in my area.

the RECORDING 2 / Henri

When I was in university, I started teaching English to a number of international students at our school and it was volunteer teaching program. It was a good way to meet people from a lot of different countries. I taught students from Spain, China, Vietnam and actually Japan as well. I met a lot of interesting people. One of the Chinese guy I taught had three different university degrees in science, physics and engineering. He was really amazingly intelligent and I got to go out and have drinks with people from many different countries. I really enjoyed it quite a bit. I think volunteering in academic field is really good for getting experience and for meeting interesting people.

the RECORDING 3 / Flying Wheelchair

Adapted from the web site www.nisshasai.jp and translated into English

Do you have any plan to fly to any Asian, African or South American countries in the near future? Are you interested in doing a little volunteer work when you travel? If your answer is YES, please join the Flying

Wheelchair volunteer project.

We provide recycled wheelchairs to facilities and individuals in 13 countries in Asia, Africa and South America. 65 technical high schools have been participating in the project. We collect old or unnecessary wheelchairs and students at technical high schools repair them.

We need you to send these wheelchairs to many different countries where people are waiting for wheelchairs. It's very simple.

First, please let us know when and which flight you are going take. Then, we'll send a wheelchair to the airport you're using. Please pick it up and register it at the airline counter you are going to board.

Finally, at the airport of your destination, pick up the wheelchair at baggage claim and hand it to our staff waiting for you at the airport.

For more details, please visit our website www.nisshasai.jp.

<付録2>

THEME 毎日欠かさずやっている行動

—対象：初級レベル（TOEIC スコア 450 点以下）

—所要時間：90 分

—理想的なクラスサイズ：10 名前後

—教材：オリジナルワークシート 1 枚

—ワークショップの目的：

伝えたいことを日本語で明確にした後、英語にする経験を通し、日本語と英語の構造の違いを知る。日々の生活に密着した単語を身につける。

—段階ごとの目的：

< Stage 1, 2 準備段階 >

各自が自分の毎日の行動を振り返り、それらの行動を言い表す際に必要な単語を確認しながら現在形の文を英語で作ることが出来るようになる。

< Stage 3 発表段階 >

自分が毎日やっていることを英語で言えるようになり、そのトピックに関して相手に質問することが出来るようになる。

< Stage 4 変換段階 >

自分が言いたかったことを日本語で明確にし、日本語と英語の違いに注意しながら英語に変換する過程を経験する。英語に対する苦手意識を取り除き、考えていることを英語にスムーズに置き換えられるようになる方法を試行錯誤しながら自分自身で見つけることが、このタスクの目的である。

< Stage 5 分析段階 >

ペアまたはグループで、自分や他人の発話を客観的に分析することを経験する。この過程を通して、文法の必要性、重要性を認識させ、誤解の少ないコミュニケーションを行う為に欠かせない英語基礎力を育て、定着させることが目的である。

Lesson Plan

〈具体的な流れ〉

Stage1: Pre-Task 1

毎日欠かさずやっている行動を5つ日本語でワークシートに書く。

Stage2: Pre-Task 2 / Preparing for Report

Stage1 で書いた毎日欠かさずやっている行動を英文にする。基本的に辞書の使用可。

必要があれば、ペアまたは、グループでワークシートを見せ合い、意味の通じる英文になっているかどうか確認する。

Stage3: Task 1 / Reporting and asking questions

クラス全体で実際に行う前に講師が1人の受講生と具体的な会話の例(デモンストレーション)を行い、観察することで受講生自身に次に行うタスクのイメージを掴ませる。全員が立ち上がり新しいペアを作る。ワークシートは手元に持っていてよいが、見ながら読み上げてはいけない。以下の流れで疑問文を作る練習を含んだ会話を5分ごとに3回、異なる相手と行う。ペア交代の合間に2分間、会話の最中に聞きたかったのに聞けなかったこと、言いたかったのに言えなかったことを日本語で書き留める時間を設ける。タスクの最中、講師は、受講生間の会話を注意深く聞いて周り、間違いを発見した際には、記憶するか、メモをする。決して、その場で直したり受講生間の会話に割って入ったりしてはいけない。

〈デモンストレーション例〉

受講生1：作った英文を1つ受講生2に言い、その文を疑問文にして相手に質問。

受講生2：質問に答える。

答えが Yes の場合、受講生2が自分で作った英文を1つ言い、その文を疑問文にして相手に質問。答えが No の場合、受講生1は、さらにもう1つ質問を作って受講生2に尋ねる。もちろん、答えが Yes だった場合でも、質問を更に行うことは可能。

〈 Example として〉

student1:I wake up at 7:00. Do you wake up at 7:00?

Case A

Student2: Yes. → Student2: I eat breakfast. Do you eat breakfast ?

Student1: Yes. → Student2: What do you eat ?

Case B

Student2: No. → Student1: What time do you wake up ?

Student2: I wake up at 6:30. I eat breakfast. Do you eat breakfast ?

Stage4: Task 2 / Transforming

ペア交代の合間に日本語で書き留めた、会話の最中に聞きたかったのに聞けなかったこと、言いたかったのに言えなかったことを各自で英語にする。必要に応じて講師は受講生が書き留めた日本語を参考にしながら、まず英語にしやすい日本語へと日本語で書かれた内容を転換させるヒントを与える。

決して答えを教えるてはいけない。受講生が試行錯誤を経て自分自身の力で文を完成させられるように導く。各自が英語にした文のみを、ペアまたはグループで読み合い（言い合い）、必要に応じて、英語による会話を行う。最後にクラス全体に、何人かの受講生が作った英文を発表し、各自が伝えたかったことを英語で伝える、というタスクを完了出来たかどうか確認。

Stage5: Focus on form

講師は Stage3 の受講生間の会話で発見した文法の間違いを含む文をいくつかボードに書く。ペアまたは、グループで、何が、どのようにおかしいのか、文法の間違いを探し訂正。最後に全体で確認を行う。各ペアまたはグループが話し合ったことを全体に発表するワークショップ形式で進める。講師が一方的に答えを与えてはいけない。レベルに応じて、必要があれば補足のみ講師が行う。

WORK SHEET

毎日欠かさずやっている行動を5つ日本語で書いてみましょう

- ① _____
- ② _____
- ③ _____
- ④ _____
- ⑤ _____

毎日欠かさずやっている行動を英語にしてみましょう。

- ① _____
- ② _____
- ③ _____
- ④ _____
- ⑤ _____

会話の中で言いたかったけれど、うまく英語に出来なかったこと
